

NPC2018 San Francisco 出席の感想

三菱重工業（株） 石原伸夫

今回の NPC2018 は、個人的には NPC2010 Quebec（カナダ）、NPC2014 札幌に続く 3 回目の NPC となったが、いろいろな意味で印象深い国際会議となりました。

まず、2018 年を表す一字に「災」が選ばれたように、大型の台風が何度も日本を縦断し、北海道では地震と全域停電があり、NPC2018 に関しても、出国の 4 日前に関西空港が水没し、直前で別のルートと航空会社を予約しての出発となりました。加えて、今回は主催者側の発表要旨集の公開が出国の直前で、その内容確認は、飛行機の中、到着したホテルと慌ただしい開幕となりました。

それでも月曜日からは平常通り、5 日間の会議が開始されます。発表は口頭とポスター合わせて 150 件程度、出席者も 250 名程度と、従来と同規模でしたが、内容は非常にレベルが高く、出席した価値が十分にあるものでした。EPRI の意図がはっきり表れたプログラムで、これまである程度の割合を占めていた線量率低減、材料・腐食の口頭発表の割合は減少した印象で、日本の関心事とは異なるのですが、PWR 関連では Li-7 に代わる K（カリウム）適用検証の進行状況、フィルム・フォーミング・アミンや分散剤など、EPRI が推進してきた内容が、米国および欧州含め、各国で展開されている様子が伺えました。好き嫌いが出るかも知れませんが、他の国際会議同様、これがビジネスのやり方で、独自の方法を貫く点、他に着く部分、他を巻き込む部分を分けて行かなければなりません。

研究的な要素ではないのですが、幾つもの新設プラントの試運転状況報告は明るい話題です。やはり、新設なくして発展はありえません。日本国内の新設はまだまだ先かも知れませんが、間もなく国内の原子力プラントが全て停止するドイツが、日本の 1/3 程度の出席者ながら海外と提携して活発に発表、ドイツ国内でも新たな水処理の導入を図ろうと意気込んでいるのを見ると、見習うべきものがあります。

会議も十分楽しめましたが、到着から開始までのわずかな間や、夜も充実した時間を楽しめたと思います。今回、日本人のみが全員参加しての夕食はありませんでしたが、国内外のいろいろな方々と夕食を共にしました。米国で San Francisco が一番美しい街と言っていた米国人がいましたが、温かい海に囲まれた小高い丘の街は、景色も食事も働く人も明るく輝かせる場所でした。食事をする、その人となりが良く分かります。海外出張には必ず 20kg のロードバイクを持参するという学会の重鎮がおられましたが、彼と話をしていると、全てを楽しんでいるのが良く分かります。

私の方とは言えば、今回も某スポーツメーカのビジネスシューズを履き、到着した日に時差ボケ解消と称して 10 km を歩き、いろいろな風景と出会いました。久しぶりの海外出張で、うっかりとカメラを荷物と一緒に預けてしまい、Li バッテリーが消耗して枚数は撮れませんでした。最後に記念写真を掲載します。次に行けるかどうかは分かりませんが、その日が来れば、また、仕事と散歩を楽しみたいと思います。

以上



写真1 会場となったホテル横の公園



写真2 市内を見渡す丘から



写真3 名物のケーブルカー



写真4 観光用の港